平成２１年度～平成３０年度

第3次 田人交流の里構想

田人地域振興協議会

『たびと水車の里』（旅人字川向）

『冬景』（黒田字寺倉）
撮影者：永井 良夫

第３次 田人交流の里構想　【目次】

はじめに …… P. 1
まちづくり構想について …… P. 2
田人地区マップ …… P. 3
構想の理念・基本目標・３本の柱 …… P. 5
第３次 田人交流の里構想の体系 …… P. 6
現状と課題 …… P. 7
方策内容 …… P. 10
実践の姿勢[推進体制] …… P. 15
方策内容の年次計画表 …… P. 16
構想策定のプロセス …… P. 18

資料編　地形、歴史、行政区域の変遷 …… P. 20
町名別人口・世帯数、文教施設 …… P. 21
社会福祉施設等、公民館・集会所 …… P. 22
警察・消防、文化財 …… P. 23
地域づくり団体 …… P. 24
地域資源 …… P. 25
新・田人交流の里構想検討委員名簿 …… P. 26

あとがき …… P. 27

はじめに

田人地域振興協議会は、今後田人地区が進むべき方向を明らかにし、まちづくり活動を推進していくための指針として、第３次田人交流の里構想を策定しました。

この構想は、平成２年度に策定された第１次田人交流の里構想、そして平成１１年度に策定された第２次田人交流の里構想の後を継ぐもので、平成１９年より３分野の検討委員会を設け、１年半検討を重ね、平成２１年３月に策定しました。

第１次田人交流の里構想では、「田人おふくろの宿」の誘致、第2次では「地域交流センター田人ふれあい館」の整備と、ハード面での事業でした。

初期の構想から約２０年を経て今「田人おふくろの宿」においては年間５万人余りのお客様にご利用を頂いているところであります。

また、平成１６年度に整備された「田人ふれあい館」も、支所・公民館・診療所機能を併せ持ち、さらに入浴施設や屋内運動場を併設することで、地元住民はもとより他地区からの利用者も増加しており、構想の成果が現れております。

反面、容赦なく押し寄せる少子高齢化及び人口減少の波には抗しきれません。

そのような状況下でのまちづくりを考えるとき、第３次田人交流の里構想ではソフト面に重点を置き、今後１０年後、１００年後の未来まで力強く持続できることをめざし、

① 田人の強みを活かした想像力豊かな産業の創造

② お互いに顔が見えるまちづくり

③ 生活者視点による暮らしやすさの実現

を３本の柱に据え、基本戦略を明確に田人の豊かな自然の中で、住民ひとり一人が参画し行政との連携を密にして、安心安全なまちづくりを推し進めて参りたいと考えております。

皆様方のまちづくりへの積極的な参加をお待ちしております。

平成２１年３月

田人地域振興協議会
会長　緑川　廣

構想策定の理由と目的

第２次田人交流の里構想は、平成２年度に策定された第１次田人交流の里構想のあとを受け、平成１１年度に策定されました。

第２次田人交流の里構想は、「地域住民が田人に住むことの豊かさを実現すること」を基本理念とするハード（箱物）及びソフト両面にわたる全般的な構想であり、田人の目指すべき将来像を「豊かな自然と調和した交流の里」としました。

ハード面においては、平成１６年１１月に地域間交流及び世代間交流を促進し、地域の特性を活かした魅力ある地域づくりを展開できる拠点施設として、住民サービス機能及び診療所機能を併せ持つ「地域交流センター田人ふれあい館」が整備されました。

また、ソフト面においても、各種交流イベントの開催により交流人口が増加し、また移住コンシェルジェの活躍によりＩターン者が増加傾向にある等、「交流」をキーワードとした２次にわたる田人交流の里構想の成果が徐々に現れ始めました。

しかしながら、地域の活性化＝「雇用の場の確保、過疎化防止、所得の向上」と捉えるならば、田人地区はこれらのいずれの点においても未だ危機的な状況を脱してはおりません。

この度、第２次田人交流の里構想の構想期間が平成２０年度をもって終了するにあたり、田人地区が１０年後、１００年後の未来まで力強く持続できることをめざし、平成３０年度を目標年度とする新しいまちづくり構想を策定することになりました。

構想の性格

本構想は、今後田人地区が進むべき基本的方向を明らかにし、田人地区のまちづくりを総合的に推進していくための長期的かつ自主的な構想です。

また、本構想は、行政の役割を明らかにするとともに、私たちが行政と協働してまちづくり活動を行っていく際の指針となるものです。いわば、自分がどこに立っているかをいつでも確認できる、まちづくりの地図のようなものです。

構想の期間

本構想の期間は、平成21年度を初年度とし、平成３０年度を目標年度とする１０ヵ年の構想です。

田人地区の主な公共施設

町　名	町　名
田人町南大平	田人町荷路夫
田人町旅人	田人町貝泊
田人町黒田	田人町石住

田人地区の主な地域資源

構想の理念

本構想は、田人の豊かな自然を保全し、これと調和した交流の里の実現をめざします。

さらに、田人の強みを活かした想像力豊かなまちづくりを実践することで、１０年後はもとより、１００年後の未来まで力強く持続できる自立したまちをめざします。

基本目標

「ほんとうに住みよい田人をめざして」

３本の柱

第一の柱　田人の強みを活かした想像力豊かな産業の創造

（１）新たな地域産業を創造する
（２）Ｉターン者・高齢者向けの雇用を創出する
（３）マーケティング戦略・戦術を習得する

第二の柱　お互いに顔が見えるまちづくり

（１）交流人口を増やす
（２）定住人口を増やす

第三の柱　生活者視点による暮らしやすさの実現

（１）元気で長生きする
（２）新しい公共交通手段を育てる
（３）自ら学び成長する
（４）普段から災害にそなえる
（５）都市基盤を充実させる

第３次 田人交流の里構想の体系

現状・課題		基本目標	柱		基本戦略	取り組みの方向性	まちづくりの実践
課題1	【地域産業の衰退】 一次産業の衰退と従事者の高齢化 【地域活力の低迷】 若年層が町を離れ、高齢化率が高まり、地域の活力が低迷 【単発的な事業展開】 単発的で計画性・戦略性に乏しい事業展開の見直し	「ほんとうに住みよい田人をめざして」	経済的豊かさの実現	「田人の強みを活かした想像力豊かな産業創造」	（1）新たな地域産業を創造する	①“田人の強み”を商品化する	■「自然」「水」「癒し」「健康」等々、有形無形にこだわらない着眼点をもち、田人に“落ちているもの”、田人が他地域に比べて秀でているものを商品化（サービス提供・イベント開催・製品化等）する。
						②計画的・効率的にイベントを開催する	■ 実施計画（短期計画）を策定し、常に３年後の目標を見据えてイベントを企画する。 ■ 単年度事業毎に具体的な目標値（例：入場者数・売上金額等）を定め、イベント終了後に成果を検証する。
						③地域産業ネットワークを形成・強化する	■ 農商工が連携してそれぞれの経営資源やノウハウを活かし相乗効果を発揮する。 ■ 田人地域内における生産から消費までの流通経路を確立する。
					（2）Ｉターン者・高齢者向けの雇用を創出する	①高齢者ビジネスを研究し実践する	■ 全国の高齢者によるビジネスや取り組みを研究し、敷居が低く、誰にでも実践できる田人ならではのサービス提供を目指す。
						②コミュニティ・ビジネスを振興する	■ 地域課題の解決と生活の質の向上を、ビジネスを通して、地域自らが実現する力を養い、高める。
						③本市Ｉターン施策と連携する	■ 市内トップのＩターン率を誇る田人において、関係機関と連携し、移住後の精神面での生活支援や雇用に関する情報の提供等各種フォローアップ体制を充実させ、更なる移住者増加を図る。
					（3）マーケティング戦略・戦術を習得する	①マーケティングの基礎から学び、実践するためのノウハウを習得する	■ 農産物生産者や商業者自らが、営業や販売のマーケティング戦略を基礎から学ぶため、補助制度を有効に利用してセミナーや勉強会の開催又は個別指導を受ける。
						②インターネットを徹底的に活用する	■ ホームページ内にオンラインショップを設置し、市内にこだわらず、関東圏にも情報やサービスを発信する。
						③他地域（広域・近隣）と連携し、新たな商業市場を形成する	■ 地域連携会議又は事業を実現する。
課題2	【交流人口】 ホームページによる情報発信の強化 【Ｉターン者】 空地・空家の不足		人間関係の豊かさの実現	「お互いに顔が見えるまちづくり」	（1）交流人口を増やす	①田人地域振興協議会公式ホームページを充実させる	■ 田人地域振興協議会公式ホームページのリニューアルを業者を交えて行う。 ■ 常にタイムリーな情報を発信する。
						②グリーンツーリズムやヘルスツーリズムを推進する	■ 都市部の小中学生を対象とした森林環境体験学習を実施する。 ■「自然」及び「健康」をキーワードとした体験型ツアーを実施する。
					（2）定住人口を増やす	①Ｉターン者を積極的に受け入れる	■ 関係機関（IWAKIふるさと誘致センターほか）及び移住コンシェルジェとの連携を強化し、Ｉターン希望者に適切な情報を提供する。 ■ Ｉターン希望者の宿泊体験ツアーを積極的に受け入れる。 ■ Ｉターン者が早く地域になじめるように、移住後のフォローアップにも力を入れる。
課題3	【高齢社会】 田人地区は高齢化率が高いが、専門医療機関及び福祉施設が地元になく不便 【生活バス路線】 生活バス路線が廃止され、自ら交通手段を持たない方は自由に移動できず不便 【田人ふれあい館】 田人ふれあい館を今後どう有効利用していくかが課題（ソフト面） 【自主防災組織】 組織率は100%だが、危機意識が低く、訓練も不十分 【都市基盤】 生活道路の整備はもちろんのこと、社会の急速なIT化に伴いデジタル・ディバイドの早期解消が喫緊の課題		生活の質的豊かさの実現	「生活者視点による暮らしやすさの実現」	（1）元気で長生きする	①必要な医療・介護が受けられる	■ 田人診療所で定期的に歯科及び眼科の診察を受けることができるように市に働きかける。 ■ 田人ふれあい館の調理室や入浴施設を利用し、ミニデイサービスを実施する。 ■ 小規模多機能施設の開設を支援する。
						②高齢者を支援する	■ 安価で導入しやすい高齢者の安否確認システムを検討し、先進モデル地区として導入を図る。 ■ 買い物支援システムを検討し、確立する。
						③健康づくり活動を推進する	■ 食生活や運動の重要性について啓蒙活動を行う。 ■ 田人ふれあい館屋内運動場等で健康づくり活動を行う。
					（2）新しい公共交通手段を確立する	①あいのりタクシーを定着させる	■ 需要の掘り起こしを行い、利用者の底辺拡大を図る。 ■ 全国の成功事例を研究し、参考にする。
					（3）自ら学び成長する	①公民館を積極的に活用する	■ 出前講座や市民講師を積極的に活用する。 ■ 住民が公民館の企画運営に積極的に参加する。
						②地域における学校のあり方を検討する	■ スクールバスの導入等について検討する。 ■ 教育環境の良さをＰＲし、都市部の児童・生徒を田人に取り込めないか検討する。
						③地域文化を後世へ伝承する	■ 三世代交流事業を推進する。 ■ 田人ふれあい館に田人の歴史や物産を紹介する展示コーナーを設ける。 ■ 地域の行事や文化を掘り起こし、継承する。
					（4）普段から災害にそなえる	①地域の自主防災機能を強化する	■ 単位自主防災組織や田人地区自主防災会連絡会が定期的に訓練を実施する。 ■ わかりやすい防災マップをつくる。 ■ 災害時要援護者支援体制の整備を図る。
					（5）都市基盤を充実させる	①デジタル・ディバイドを解消する	■ 携帯電話不感地帯の早期解消及びブロードバンド環境の整備を図る。
						②豊かな自然環境を保全する	■ 広葉樹の植樹及び里山の整備を推進する。 ■ 防犯カメラや看板を設置し、不法投棄の防止活動を強化する。
						③生活道路の整備を実現する	■ ふるさと林道延伸をはじめとする生活道路の整備を行政に働きかける。 ■ 日陰対策を推進し、冬期のスリップ事故を防止する。

実践の姿勢（推進体制）

《田人地域振興協議会》

■「構想」実現のための実施計画（３ヵ年計画）策定

「構想」を具現化するために実施する事業を、向こう３ヵ年にわたり定める短期計画システム（市役所で実施）を導入する。

■「組織運営」から「組織経営」へ意識の醸成

1．収益システムの検討・確立
2．目標の数値化
3．ボランティア事業からビジネス事業へ

■組織強化

1．部会の役割の整理
2．区長会の諮問機関化
3．青壮年（～４４歳）層の拡充

《行政》

■地域振興担当員制度の見直し

地域振興担当員の地域振興業務を係の業務として位置づけた上で、これまでどおり、地域振興業務を総括・処理する担当職員を配置し、その指揮の下で、弾力的な職員の活用や組織的な対応の強化を図る。

■ 経済的豊かさについて

【地域産業の衰退】 **■一次産業の衰退と従事者の高齢化**

田人地区における第一次産業従事者数は、平成１７年１０月１日現在１８９名で、３０年前の昭和５０年時の８３１人と比べて６４２人の減となっている。
中山間地域における一次産業の衰退は、就業や雇用機会に影響を及ぼし、過疎化問題に繋がる要因となることから対応策が急務である。

【地域活力の低迷】 **■若年層が町を離れ、高齢化率が高まり、地域の活力が低迷**

地区内経済活動の衰退による若年層の他地域流出は、過疎化という形で表面化し、高齢化率が年々高まる一方となっていることから、まずはその高齢者が生きがいを感じ、健やかに生活を営める経済的な基盤づくりが重要である。

【単発的な事業展開】 **■単発的で計画性・戦略性に乏しい事業展開の見直し**

現在、複数の各種事業が年間を通じて実施されているが、多くの事業が前年踏襲型のスタイルであり、目的や方向性を見失っている感が否めない。
事業の実施にあたっては、明確な目標を設定し、目標達成に向け短・中・長期計画を打ちたて、計画→実施→評価→改善→計画…というサイクルを根付かせる必要がある。

■ 人間関係の豊かさについて

【 交 流 人 口 】 ■ホームページによる情報発信の強化

田人地区においては、新聞等を活用した情報発信は行われている。
さらにホームページを最大限に活用した情報発信を行い、交流人口の増加を図る必要がある。

【 Ｉ ター ン 者 】 ■空地・空家の不足

移住コンシェルジェの活躍により、県内外からいわき市にＩターンする５０％が田人地区に移住しているが、反面空地・空家が不足している。
これらの情報提供には個人情報が含まれることから、完全な情報提供が困難である。

『田人の祭①黒田不動堂』（黒田字別当）
撮影：板津 弥吉

■ 生活の質的豊かさについて

【 高 齢 社 会 】　**■田人地区は高齢化率が高いが、専門医療機関及び福祉施設が地元になく不便**

田人地区の高齢化率（６５歳以上高齢者が総人口に占める割合）は、平成１７年国勢調査によると３５．８%と市内で最も高い数値を示している。
田人地区の高齢者は、自地区に専門医療機関や福祉施設がないため、時間をかけて病院等に通ったり、施設に入所するため住み慣れた土地から離れて暮らさなければならない。このような状況は、高齢者本人にとってはもちろんのこと、その家族にとっても物心両面で負担が大きい。

【生活バス路線】　**■生活バス路線が廃止され、自ら交通手段を持たない方は自由に移動できず不便**

生活バス路線が平成１９年９月末で全て廃止されたことにより、自ら交通手段を持たない住民の日常生活圏が著しく制限されてしまった。
平成１９年度には、市の地域交通ステップアップ支援事業による乗合タクシーの社会実験を実施、また平成２０年度にも県の補助制度を活用し乗合タクシーを運行したが、未だ本格的な公共交通システムの確立にはいたっていない。

【田人ふれあい館】　**■田人ふれあい館を今後どう有効利用していくかが課題（ソフト面）**

平成２０年度に田人公民館が開催した各種講座を受講した者のうち、田人地区住民の占める割合は２７．０%にすぎず、屋内運動場の利用も地区外の利用者が多い。
また、せっかくできた入浴施設もほとんど稼働していない状況である。

【自主防災組織】　**■組織率は100%だが、危機意識が低く、訓練も不十分**

９つの自主防災会及び１つの婦人消防隊が組織されているが、一部で活動を行っていない組織がみられる。

【 都 市 基 盤 】　**■生活道路の整備はもちろんのこと、社会の急速なIT化に伴いデジタル・ディバイドの早期解消が喫緊の課題**

ブロードバンドを利用できる地区がほとんどない。

第１の柱　田人の強みを活かした想像力豊かな産業の創造

（１）新たな地域産業を創造する

①“田人の強み”を商品化する

■「自然」「水」「癒し」「健康」等々、有形無形にこだわらない着眼点をもち、田人に“落ちているもの”、田人が他地域に比べて秀でているものを商品化（サービス提供・イベント開催・製品化等）する。

②計画的・効率的にイベントを開催する

■実施計画（短期計画）を策定し、常に３年後の目標を見据えてイベントを企画する。

■単年度事業毎に具体的な目標値（例：入場者数・売上金額等）を定め、イベント終了後に成果を検証する。

③地域産業ネットワークを形成・強化する

■農商工が連携してそれぞれの経営資源やノウハウを活かし相乗効果を発揮する。

■田人地域内における生産から消費までの流通経路を確立する。

（２）Ｉターン者・高齢者向けの雇用を創出する

①高齢者ビジネスを研究し実践する

■全国の高齢者によるビジネスや取り組みを研究し、敷居が低く、誰にでも実践できる田人ならではのサービス提供を目指す。

②コミュニティ・ビジネスを振興する

■地域課題の解決と生活の質の向上を、ビジネスを通して、地域自らが実現する力を養い、高める。

③本市Ｉターン施策と連携する

■市内トップのＩターン率を誇る田人において、関係機関と連携し、移住後の精神面での生活支援や雇用に関する情報の提供等各種フォローアップ体制を充実させ、更なる移住者増加を図る。

第１の柱　田人の強みを活かした想像力豊かな産業の創造

（3）マーケティング戦略・戦術を習得する

①マーケティングを基礎から学び、実践するためのノウハウを習得する

■農産物生産者や商業者自らが、営業や販売のマーケティング戦略を基礎から学ぶため、補助制度を有効に利用してセミナーや勉強会の開催又は個別指導を受ける。

②インターネットを徹底的に活用する

■ホームページ内にオンラインショップを設置し、市内にこだわらず、関東圏にも情報やサービスを発信する。

③他地域（広域・近隣）と連携し、新たな商業市場を形成する

■地域連携会議又は事業を実現する。

『軽トラバザール in たびとほっこり祭』（旅人字下平石）

第２の柱　お互いに顔が見えるまちづくり

（１）交流人口を増やす

①田人地域振興協議会公式ホームページを充実させる

■田人地域振興協議会公式ホームページのリニューアルを業者を交えて行う。
■常にタイムリーな情報を発信する。

②グリーンツーリズムやヘルスツーリズムを推進する

■都市部の小中学生を対象とした森林環境体験学習を実施する。
■「自然」及び「健康」をキーワードとした体験型ツアーを実施する。

（２）定住人口を増やす

①Ｉターン者を積極的に受け入れる

■関係機関（IWAKIふるさと誘致センターほか）及び移住コンシェルジェとの連携を強化し、Ｉターン希望者に適切な情報を提供する。
■Ｉターン希望者の宿泊体験ツアーを積極的に受け入れる。
■Ｉターン者が早く地域になじめるように、移住後のフォローアップにも力を入れる。

『田人おふくろの宿』（旅人字江尻）
撮影：板津 弥吉

第３の柱　生活者視点による暮らしやすさの実現

（１）元気で長生きする

①必要な医療・介護が受けられる

■田人診療所で定期的に歯科及び眼科の診察を受けることができるように市に働きかける。
■田人ふれあい館の調理室や入浴施設を利用し、ミニデイサービスを実施する。
■小規模多機能施設の開設を支援する。

②高齢者を支援する

■安価で導入しやすい高齢者の安否確認システムを検討し、先進モデル地区として導入を図る。
■買い物支援システムを検討し、確立する。

③健康づくり活動を推進する

■食生活や運動の重要性について啓蒙活動を行う。
■田人ふれあい館屋内運動場等で健康づくり活動を行う。

（２）新しい公共交通機関を育てる

①あいのりタクシーを定着させる

■需要の掘り起こしを行い、利用者の底辺拡大を図る。
■全国の成功事例を研究し、参考にする。

（３）自ら学び成長する

①公民館を積極的に活用する

■出前講座や市民講師を積極的に活用する。
■住民が公民館の企画運営に積極的に参加する。

②地域における学校のあり方を検討する

■スクールバスの導入等について検討する。
■教育環境の良さをＰＲし、都市部の児童・生徒を田人に取り込めないか検討する。

③地域文化を後世へ伝承する

■三世代交流事業を推進する。
■田人ふれあい館に田人の歴史や物産を紹介する展示コーナーを設ける。
■地域の行事や文化を掘り起こし、継承する。